

別添様式4

青森県鳥獣被害防止総合対策事業(国事業名:鳥獣被害防止総合対策交付金)の評価報告(令和6年度)

事業実施主体名: 青森市鳥獣被害防止対策協議会（構成市町村: 青森市）

1 被害防止計画の特徴等

令和3年度から4年度にかけては、青森市鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動や巡回活動、チラシの配布等による農作物被害情報の収集を実施。令和5年度においては、国の鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、遠隔監視装置を使用した大型囲い罠による捕獲活動、青森市捕獲サポート隊による捕獲活動の補助、電気柵の設置を実施した。令和6年度も大型囲い罠による捕獲活動、電気柵の設置等を継続したほか、新たに緩衝帯の整備を実施した。被害防止計画作成当初はニホンザルによる農作物被害が多かったため、ニホンザル対策を中心とした計画となっている。

2 事業効果の発現状況

【地域の体制整備】

青森市鳥獣被害対策実施隊による活動…東青森校友会及び青森県猟友会浪岡支部により組織し、市内の巡回活動、捕獲活動、被害状況調査及び生息状況調査を実施したことにより、青森市内の農作物被害状況及び鳥獣全般の生息情報を収集した。
青森市捕獲サポート隊による活動…地域農業者等40名から組織される「青森市捕獲サポート隊」を令和5年度に組織し、青森市鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動をサポートした。

【捕獲状況】

上記実施隊活動及びサポート隊による活動により、令和3年度ニホンザル1頭、アライグマ2頭。令和4年度はニホンザル2頭、アライグマ6頭、ハクビシン5頭。令和5年度はサポート隊の協力も加わり、ニホンザル35頭、ツキノワグマ4頭、アライグマ4頭、ハクビシン2頭、タヌキ1頭を捕獲した。

令和6年度はニホンザル15頭、ツキノワグマ捕獲実績なし、アライグマ5頭、ハクビシン9頭、タヌキ11頭を捕獲した。

【被害防止効果】

ニホンザルによる農作物被害については、令和3年度、令和4年度の箱わなによる捕獲活動のほか、令和5年度からの大型囲い罠、電気柵、実施隊及びサポート隊活動に加え、令和6年度の緩衝帯整備の実施により、令和5年度に比べて減少した。

【人材育成状況】

実施隊員やサポート隊員、農業者向けの農作物被害対策研修により、捕獲技術や農作物被害対策に関する知識の向上を図った。また、動物駆逐用煙火講習会等を開催し、動物駆逐用煙火を使用した追払い活動を実施した。

3 被害防止計画の目標達成状況

被害金額: 795千円(達成率308.6%)、被害面積: 0.134ha(達成率579.2%)

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価		
										対象鳥獣	被害金額				被害面積					
											基準値 (千円)	目標値 (千円)	実績値 (千円)	達成率	基準値 (ha)	目標値 (ha)	実績値 (ha)		達成率	
青森市鳥獣被害 防止対策協議会	青森市	R3～R6	ツキノ ワグマ ニホン ザル アライ グマ カラス ニホン ジカ イノシ シ ハクビ シン	令和5年度 (1)有害捕獲 (2)被害防除 (3)ICT等新 技術の活用 (4)捕獲サ ポート体制 の構築 (5)侵入防止 柵 令和6年度 (1)有害捕獲 (2)被害防除 (3)サル複合 対策 (4)ICT等新 技術の活用 (5)捕獲サ ポート体制 の構築 (6)侵入防止 柵	令和5年度 (1)有害捕獲 捕獲活動 ・実施隊出動時間175時間 ・実施隊費用弁償1,842km 捕獲機材等の整備 ・大型囲いわな1基 ・テレメトリ発信器装着3回 ・電気止め刺し(2本槍)2本 ・電気止め刺し(1本槍)6本 ・電気止め刺し用ボーチ6個 ・中型動物用箱わな10基 ・野生動物用グローブ1双 ・クマ撃退スプレー9個 ・クマ捕獲檻3基 (2)被害防除 群れの追跡調査 ・実施隊出動時間284時間 ・実施隊費用弁償4,619km ・コンパス4個 煙火講習会 ・2回開催、計64名 (3)ICT等新技術の活用 ICT機器導入 ・遠隔監視装置1式 ・動物発信器専用受信機4機 ・テレメトリ用八木アンテナ5基 ・テレメトリ用車載アンテナ5式 ・変換コネクタ1個 ・テレメトリ発信器7個 (4)捕獲サポート体制の構築 捕獲サポート隊活動 ・活動時間74時間 ・保険7月～11月 (5)侵入防止柵 ・新城天田内地区 1,267m ・四ツ石・田茂木野地区 1,425m	令和6年度 (1)有害捕獲 捕獲活動 ・大型囲い罠1基 ・実施隊出動時間256時間 ・実施隊費用弁償1,552km 捕獲機材等の整備 ・テレメトリ発信器装着3回 ・クマ撃退スプレー15個 ・クマ用捕獲檻2基 ・くくり罠一式 ・トレイルカメラ5個 ・自動捕獲器1個 ・自動遠隔監視装置一式 ・混合燃料 (2)被害防除 群れの追跡調査 ・実施隊出動時間220時間 ・実施隊費用弁償2,196km ・トレイルカメラ5台 ・テレメトリ発信器5個 煙火講習会 ・2回開催、計28名 (3)サル複合対策 ・緩衝帯の整備(混合燃料3缶) ・実施隊追払い活動時間2時間 ・実施隊員費用弁償100km (生息状況調査、捕獲活動) (4)ICT等新技術の活用 (ICT等機材を活用した生息状況 調査、捕獲活動) ・実施隊出動時間93時間 ・実施隊費用弁償971km (5)捕獲サポート体制の構築 ・サポート隊活動時間155時間 ・保険6月～11月 (6)侵入防止柵 ・新城天田内地区 873m	青森市鳥 獣被害 防止対策 協議会	(1) 大型囲いわな R6. 7. 19～ クマ撃退スプレー R6. 7. 18～ クマ用捕獲檻 R6. 9. 27～ くくり罠一式 R6. 11. 15～ トレイルカメラ R6. 11. 25～ 自動捕獲器 R7. 2. 14～ (3) 遠隔監視装置一 式 R6. 7. 19～ テレメトリ発信器 R6. 10. 30～ (5) 新城天田内地区 R6. 10. 9～	侵入防止 柵 100%	【実施隊活動】 実施隊員による巡回活動、捕獲活動、被害状況調査及び生 息状況調査を実施したことにより、青森市内の農作物被害状 況及び鳥獣全般の生息情報を収集した。捕獲活動は、令和3 年度ニホンザル1頭、アライグマ2頭。令和4年度はニホンザル 2頭、アライグマ6頭、ハクビシン5頭。令和5年度はサポート隊 の協力も加わり、ニホンザル35頭、ツキノワグマ4頭、アライグ マ4頭、ハクビシン2頭、タヌキ1頭、令和6年度はニホンザル15 頭、ツキノワグマ0頭、アライグマ5頭、ハクビシン9頭、タヌキ11 頭を捕獲することができた。 【サポート隊活動】 捕獲に係る餌交換活動及び追払い活動を実施し、上記捕獲 実績に繋がるサポート活動を実施することができた。 【電気柵及び大型囲い罠】 R5年度まで新城天田内地区、四ツ石地区及び田茂木野地 区にてニホンザルによるリンゴ等の農作物被害が多発してい たことから、R5年度にニホンザルの通り道をふさぐような形で 電気柵を設置。新城天田内地区においては更にその付近に 大型の囲い罠を設置しカメラによる監視、遠隔操作による捕獲 を実施した。R6年度には新城天田内地区に電気柵を増設し、 月見野地区に大型の囲い罠を設置した。その結果、電気柵及 び大型囲い罠設置以降の設置地区の被害報告は無く、大型 囲い罠により6頭の捕獲にも成功した。	ツキノワグマ ニホンザル アライグマ カラス イノシシ ニホンジカ ハクビシン 合計	R2 — 1,085 0.4 71 — — —	R5 — 976 0.3 63 — — —	R6 — 54 0 375 31 324 11 795.0	100.0% — 945.9% 400.0% -3800.0% 0.0% 0.0% 0.0%	— 0.396 0.001 0.016 — — — 0.413	— 0.350 0.001 0.001 0.014 — — — 0.365	0.000 0.006 0.000 0.008 0.002 0.118 0.001 0.135	100.0% 847.8% 100.0% 400.0% 0.0% 0.0% 0.0%	改善計画で実施すること とした。わなの増設による 捕獲の強化、追払い活動 の強化、電気柵及び緩衝 帯の整備、住民に向けたツ キノワグマ、ニホンザルの 出没情報の公開等の取組 により、ツキノワグマ、ニ ホンザルによる被害は減少 し、全体の被害金額、被害 面積の目標は達成したもの の、近年、出没や被害が増 加しているイノシシ、ニホン ジカについては被害が増加 し、目標未達成となった。 これまで、青森市鳥獣被害 対策実施隊を令和3年度 から組織し、追払い活動や 捕獲活動等を実施したこと で、当時最も被害を出して いたニホンザルの農作物 被害については、徐々に減 少させることができ、更に 令和5年度に国の交付金を 活用し、対策を強化したこ とでニホンザルに対する被害 対策が強化された。 近年はイノシシ、ニホンジ カ等の出没及び農作物被害 が増加していることから、 青森市において被害の中心 となっているニホンザル のみならず、獣種全般の動 向に注視しながら対策を検討 する必要がある。

- 注1:被害金額及び被害面積の目標値の欄は、対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
- 2:事業効果の欄は、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。
整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
- 3:事業実施主体の評価の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
- 4:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合には、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況並びに侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況等を別添様式1別紙3に具体的に記載し、添付すること。
- 5 第三者の意見

別紙のとおり

鳥獣被害防止施設等設置後の被害状況等について

[illegible]

令和6年度 鳥獣被害防止総合対策事業の評価報告

鳥獣被害防止対策については、令和2年度に鳥獣被害防止計画を策定、令和5年度に計画を更新し、その被害防止計画に基づいて被害対策を実施しており、その効果が現れてきている。

鳥獣被害対策実施隊員の捕獲技術等の向上と知識を習得させるため、積極的に先進地視察を実施し、その捕獲技術向上の効果が評価出来る。

テレメトリー発信機を積極的に装着し、いち早く群れを発見し、追い払い・追い上げ、市担当課職員及びサポート隊とも協力しながら箱わなや多頭捕獲を狙いとした大型囲い罠の導入・電気柵導入をしながら積極的な捕獲活動・被害の軽減等を実施している。

今後も、実施隊員・サポート隊ともに積極的に研修会等を開催し、実施隊等による生息調査・群れ管理なども行い、行動域を把握しながら、その地域に応じた効率的な捕獲体制を専門家の指導・助言を取り入れながら被害対策を実施し、農作物被害の、更なる捕獲体制の強化が求められる。

このことは、青森県の調査で明らかにになっている群れの行動域が拡大していることから、近隣の町村とも連携をしながら、専門家等の指導・助言を取り入れながら積極的に対策を進めるべきである。

ニホンザル以外の鳥獣についても、農作物被害の拡大が予想されることから、していることから、補助事業等を活用し、捕獲機材等を導入した被害防止対策を強化していくことが必要である。

特定非営利法人 北限の野生動物管理センター
理 事 山 崎 秀 春